



県内主要産業の動向

2017年8・9月

◎順調 ○まずまず ◐やや低調 ●不調

業種	景況			コメント
	17年7月	17年8月	先行き	
金属洋食器	●	●	→	受注は総じて不調。国内向けは、一部で大口のノベルティ需要により繁忙を見せるものの、全体としては昨年を下回る。輸出は、原油価格の下落で景況感が悪化した中東向けが厳しい。足下では、ふるさと納税の返礼割合見直しの影響を懸念する声も聞かれる。
金属 ハウスウェア	●	●	→	8月の受注は、例年並みの水準。業務用は、食品工場新設に伴う需要を取り込むなど堅調。一方、家庭用は、一部の製品にテレビショッピングを通して強い引き合いがみられるものの、全体としては低調に終わった。先行きは、足下で進む原材料費の上昇が収益面で懸念される。
作業工具	◐	◐	→	国内販売は、秋口の需要期を前に一服感。建築関連工具は東京オリンピック需要により堅調な動き。特にトルクレンチ類の需要に伸びが出ている。輸出は、各社の出荷状況に差はあるものの、東南アジア向けを中心に低調。鋼材価格の再値上げが決まり、コストアップが懸念される。
電子部品 ・デバイス	○	○	→	受注は増勢基調が続く。半導体関連では、半導体や半導体素材の受注が引き続き伸長。電子部品関連では、半導体製造装置向けが堅調に推移。携帯端末関連も依然として高水準な受注が続く。受注増を受けて人手不足が拡大しており、人材の確保が課題となっている。
鋳物	○	○	→	外需の底堅さを背景に、受注は鋳鉄・アルミ鋳物を問わず安定している。特に、産業用ロボットや半導体製造設備、IT関連が好調。一方で、資材や電気料など製造コスト上昇を踏まえた価格交渉や、人手不足のもとでの増産対応に苦慮している企業も多い。
金型	○	○	→	受注は引き続き堅調。国内向けは、住宅用の建築金物・自動車の車載器関連部品、海外向けは、工作機械が好調に推移している。受注価格の面で、アジア諸国と競合するが、流通コストが安価で短納期かつ品質の信頼性で契約に至るケースが多い。
一般機械	○	○	→	内需は、自動車や半導体関連を中心に活況が続く。外需は、ドイツを中心にIoT化の動きが設備投資を下支え。中国では、スマートフォン・自動車関連が牽引し、日本製の高性能機械の需要が高まっている。内外需とも活況が幅広い分野に広がりつつあり、先行きの見通しも明るい。



業種	景況			コメント
	17年7月	17年8月	先行き	
絹織物	●	●	→	夏の閑散期で需要が低迷。小売店の販売不振により、受注は昨年を下回る水準にとどまった。一部に夏用の振り袖を開発し、消費者の需要喚起に努める動きがみられる。素材となる白生地生産も、購買力の回復に目処が立たず停滞。染色業者との連携や、自社ブランド製品に新たな活路を求める取り組みが進む。
合織織物	●	●	→	春物生産期だが、受注は総じて伸び悩んでいる。同じ産地の工場でも、取引しているアパレル側の姿勢如何で、生産の繁閑が明確に分かれている状況。先行きは、展示会での追加受注を期待するが、輸入品との競合や消費マインドの冷え込みによる衣料品の販売不振もあり、見通しは不透明である。
ニット	●	●	→	秋冬物生産は終盤。受注はアパレル側の在庫圧縮により前年を下回る。店頭では春夏物セールが長期化したため、秋冬物の販売は出足が鈍く、先行きの追加受注は不透明。そうした中、五泉産地では「五泉ニット」が特許庁の「地域団体商標」を取得。今秋の展示会を通じて、技術力と品質の高さをアピールする。
木工家具	●	●	→	業務用は、夏場の受注に苦戦したものの、秋口に入り一部業者で飲食チェーン店からの受注が復活するなど店舗関連に相応の動きが出てきた。家庭用は、依然として受注確保に苦慮する状況が続く。組合や地元商工団体は、首都圏で開催される大型催事に出展し、桐材製品のPRに努めている。
清酒	●	●	→	8月の出荷量は、県内向け・県外向けとも前年並みを確保。酒類別では、吟醸酒・純米酒が好調だった一方、本醸造酒が伸び悩み。販路別では、飲食店向けが不振。足下では、気温の低下とともに出荷増の動きもみられ、各酒蔵とも季節商品の投入等で需要喚起を図っている。
米菓	◐	◐	↗	8月の売上は夏場の不需要期により総じて前年を下回った。ギフト関連も振るわず。9月は気温が低下し、米菓需要が高まり前年を上回って推移。一部メーカーは、健康を意識した商品の拡充や新米を使用した商品の発売により消費を喚起。そうした中、秋の需要期を前に生産現場の人手不足を懸念する声も。
建設	◐	◐	→	公共工事は、国、県の工事発注が前年より少なく、全体では弱含み基調が続く。民間工事は、小規模工事主体で盛り上がり欠ける。住宅建設は、展示場の客足は例年並みだが、持家が着工ベースで弱含みの動き。相続対策を背景に伸びていた貸家も足下で落ち込んでいる。
大型小売店	◐	◐	→	8月の売上は総じて前年並みを確保。後半は気温低下で夏物関連商品が振るわなかったものの、食品が好調だった。足下では、気温の低下とともに秋物衣料に動き。食品も引き続き堅調。そうした中、百貨店では県産品のPRイベントや物産展などの開催により需要喚起に努める動き。